

堂本彰夫

ID 問答

(総集版 1)

「いんちき」や「でたらめ」ではないよ?!

+

新たに始まった、我(ら?)が「精神こころの放浪たび」?!

令和3年1月

## ○刊行にあたって

「東シナ海眺望記」、「じのん逍遥記」と続いた「私の精神こころの放浪たび」も、さらに「新たに始まった、我（ら？）が『精神こころの放浪たび』?!」の題の下、ここに「総集版」を刊行する運びとなった。同じように、これも含めて、一つひとつの記事は、これまで同様、我が「岳陽舎」のHP上にアップしたものである！改めて、楽しく？ご愛顧いただければ幸いである！

なお、ここには、別途連載していた「岳陽」での「～「いんちき」や「でたらめ」ではないよ?!～」の分も載せている。

堂本 彰夫

※上記ホームページの URL 及びメール・アドレスは、下記の通りです。  
いつでも、気軽に、ご覧下さい！そして、いつでもご連絡、お便りいただければ、本当に嬉しい限りです！

ホームページの URL⇒[http : //www. gakuyou. jp](http://www.gakuyou.jp)

メール・アドレス ⇒[gakuyou17@outlook. jp](mailto:gakuyou17@outlook.jp)

## 目 次

<「岳陽」連載分～「いんちき」や「でたらめ」ではないよ?!～>

- ①人生は、ある種の「アリバイづくり」?!しかし、それはまた、「存在証明」でもある?!
- ②「悶」からの脱出?「心」が開放された?!だから「門出」?!「哀歓交々<sub>こもごも</sub>」の一年?!
- ③マブヤー、マブヤー、ウーティクーヨー”思い“が次なるカタチになりますように!
- ④ハイブリッド化?!「ズーム(クラウドミーティング)」による交流・研修の意義?!
- ⑤若者の胸の内?いつの時代も同じか?!「教職」につきまとう?「闇」への苦悶?!

<新コーナー：新たに始まった、我(ら?)が「精神<sub>こころ</sub>の放浪<sub>たび</sub>」?!>

- ①「老い」と向き合う?!まずは、そこから?!
- ②人は何故?生きる??難問?ではあるが、必ず「人」は、一度は、このことを考える?!
- ③今回の災禍(パンデミック)が教えてくれること?!「抗原-抗体」の話を絡ませてみると?!
- ④「具体と抽象」について!それは、「理想」と「現実」に、いかに関わるか?!
- ⑤思い知らされた「無知」と「無力」?!だけど、それを知ったからと言って…?!
- ⑥「人の値打ち」とは何か?!やったこと、やってきたこと、あるいは、今やっていること?!
- ⑦「意味あるもの?」と「そうでないもの?」、その「混在?」が「今」を創る?!
- ⑧「宗教」をどう思うか?だが、私(達?)には、「客観的な総括?」は出来ない?!

- ⑨ 行っただけで感染する？そんなことはない？そこに、ある種の「煙幕」が張られている?!
- ⑩ 「二度あることは、三度ある?」「三度目の正直?」これを、どう解釈すればよいか?!
- ⑪ 「教育」と「学習」の関係！そこでの、「社会教育（行政）」の正当な役割が見えていない?!
- ⑫ 「教育」と「医療」は「神の域」?!より良いものを求めながらも、常に混乱・試行錯誤する?!
- ⑬ 「A I」と「未来予測」?!しかし、それは、すべてが「過去」からの学習による?!
- ⑭ 「ポスト・トゥルース post-truth（脱・真実）」の示唆するもの?!
- ⑮ 「保守（コンサーバティブ）」対「革新（リベラル）」、今、どのようになっているのか?!
- ⑯ 「国際社会」「グローバル（リゼーション）」「地球市民?」「理性?」etc. これらの行く末は？
- ⑰ 「文明（科学?）」の進展が生んだ?「民主主義」「法治主義」の浮遊（崩壊?）?!
- ⑱ そこにある「社会（集団）」と「国家（約束事）」の乖離（齟齬?）?!
- ⑲ そこに必要な「政治」と「経済」の健全化、そして、最後は、「教育（学習）」の力?!
- ⑳ 「ひきこもり（こもりびと）」！「普通」が怖い?!そこにあるメカニズムとは?!

## <「岳陽」連載分>

～「いんちき」や「でたらめ」ではないよ?!～

(作：顧問 I & D)

### ①人生は、ある種の「アリバイづくり」?!しかし、それはまた、「存在証明」でもある?!

I：年度途中の企画となりますが、Next<sup>+</sup>の活動（機関誌『岳陽』の記事作成）の助っ人として、私 I が、もう一人の助っ人？D 氏と組んで、これから、意味のある対話 important dialog (I D 問答)を行っていきたいと思います。  
D さん、よろしく！

D：I さん、こちらこそよろしく！でも、本当に、我々二人で、意味のある対話（I D 問答）となるのかな？かなり心配ではありますが、とにかく、「いんちき」や「でたらめ」ではないということだけは、分かって欲しいですね?!

そう言えば、I さんは、随分昔？、『千原通信』という研究室通信で、「インタビュー・ダイアログ」と称して、社会教育や生涯教育（学習）に関する記事を作って、現場の人に向かって発信していましたよね？

I：そうでしたね！私が、R 大学に着任して直後のことですから、もうかれこれ 29 年も前のことになりますね！若かったし、とにかく、何か関係者（とりわけ沖縄のみなさん）に、役に立つ情報や考え方を提供したかったということですね?!

D：確かに、I さんは、そういう思いと意気込みで、ここ沖縄の地で、随分と長い間頑張ってきましたよね?!けれども、それは、残念ながら、孤軍奮闘のようにも見えてましたが…?!

I：そうですね?!最後は孤立無援…？まあ、いずれにしても、結果的には、独りよがりであったようにも思いますね?!

ただし、今思えば、それなりに頑張ったということは、言ってもいいのではないのでしょうか？かなり自慰的かもしれませんが…？

D：もちろん、そうですし、大いなる評価を、少なくとも私自身はしていますよ！

I：ありがとうございます！でも、D さんにそう言ってもらっても、あまり

嬉しくもないような気がしますね?!

とにかく、あれから 30 年近く経ちますが、何が、どのように生まれたのでしょうか?! その時その時は、何か凄いことが始まる、変えることができるかもしれない? そうした動きや雰囲気もあったように思いますが、今は、期待はあっても、ほとんどそういう実感がない…?!

**D** : 多分、それは、時代が変わったということ、I さん自身が、年を重ねた（年取った?）ということでしょうが、ある意味、そういうことは誰しも思うことなのではないでしょうか?!

とは言え、現場の人達はともかく、その年々で出会った学生の皆さんには、かなりの影響と言うか、一定の成果みたいなものは蓄積されてきたのではないのでしょうか?!

**I** : 周囲の人達からは、そのようにも言ってもらえているようですが、本当のところはどうなのでしょうね?!

結局は、自分のため? あるいは、その学生達を巻き込んで、ある種の「アリバイづくり」をしてきたのかもしれませんが?!

**D** : どんな「アリバイづくり」かは、私なりに分かるような気がします、「そこに生きるということ」、「そこで仕事をするということ」は、大なり小なりそういうことなのではないでしょうか?!

今回、若者達は、「記念」とか「節目」とか言って、自分のことを振り返ろうとしています、それもまた、一つの「アリバイづくり」なのではないのでしょうか?! しかし、それは、言い換えれば、「存在証明」でもあると思います?!

②「悶」からの脱出? 「心」が開放された?! だから「門出」?! 「哀歓交々<sub>こも</sub>」の一年?!

I : 今年も、いよいよ終わりとなりますね!

私の方は、大学(非常勤)の仕事もほとんどなく(前期3コマ・後期2コマ、しかも後期は1日だけ!)、全体として、かなりのんびりとした(暇な?)一年となりました?!

Dさんの今年はいかがでしたか?

D : 私の方は、基本的に、Iさんのそれと連動している訳ですから、かなりのんびりとした(暇な?)一年であったことは事実です?!

だけど、今回の若者達の心情ではありませんが、私自身も、一つの「悶」からの脱出?があったようにも思えます?!

I : え?それは、どういうことなのですか?今更?、「悶」なんて?!

D : まあ、いろんなニュアンスがありますが、一番大きなのは、私のHP上での3部作(「東シナ海眺望記」「教育協働への道」「古代史の旅」)の、苦しみながらの創作?が、それなりに続けられているということですかね?!

I : 「古代史の旅」の方は、かなり異質な分野(テーマ)ですので、私の方からは何とも言えませんが、他の二つは、それなりに、一つの確固たるスタイルが確立されてきたようにも思えますね?!

D : そうですね?! 「古代史の旅」の方は、やはり趣味のレベルでは、かなり厳しいということかもしれません?! 本当に今、それを実感しています!

I : それはそうでしょうね?! そんなに甘くはないということですよ?!

ところで、今回若者達は、「悶」からの脱出? 「心」が開放された?! だから「門出」?! そんな自己総括をしているようですが、やはりこれまで「悶」の時間と言え、そうだったのでしょ?!

D : まあ、「産みの苦しみ」と言いますか、若者特有の? 「美意識」と言いますか? とにかく、そういうように評価できると思います! やっと自分達がやれる(やりたい!) 方向性が見えてきたということでしょう?!

I : 確かにね! ということで、もう(最初から?)、お気づきの人もいると思い

ますが、実は、私とあなたが揃うと「I D (identification)」！

そう、つまり「身分証明」、そして「存在証明」の意味ともなるのです?!  
もちろん、「いんちき」と「でたらめ」のセットという要素もないわけではないのですが… (笑)。

**D**：まあ、その「いんちき」と「でたらめ」のセットという要素は、ある意味我々の「照れ？」ということがあるわけですが、それもまた、一つの「I D」かと思いますよ！

**I**：とにかく、そういうことで、これからも、若者達との触れ合いを楽しみ（遊び?）ながら、そういうスタンスで頑張っていきましょう！Dさん、そういうことでいいですね?!

**D**：もちろんです！ただし、単なる「身分証明」ではなく、「存在証明」でありたいですね?!

**I & D**：ということで、みなさん！改めて、良いお年を！そして、可能な限りの連絡、交流をお待ちしています！



③マブヤー、マブヤー、ウーティクーヨー”思い “が次なるカタチになりますように！

I：さて、NEXT+は、今号のテーマを、何とも不思議な呪文？「マブヤー、マブヤー、ウーティクーヨー」としてありますが、これは、一体どういうことなのでしょうね?!

D：「マブヤー（マブイ）」とは、沖縄で「心、魂、精神」のことを指すようですが、例えば、怪我をしたり、ビックリしたりすると、「魂マブヤーを落とす」と言われ、落としたところまで戻って、「マブイグミ（魂汲み?）」をする風習があるそうです。「魂よ！戻って（下りて?）来い！」というような…?!

I：なかなか面白い風習（発想）ですね?!ただ単に、「痛いの、痛いの、飛んで行けー！」ではないのですね?!何かそこには、哲学?のようなものがあるようにも思えますが?!

D：私には、どういう知恵（思想、価値観?）が、そこにあるのかは、当然ながら分かりませんが、様々に辛い（痛い?魂を抜かれる?）ことがあっても、もう一度そこに戻って行けば、それまでに大切にしてきたもの（健康、平和?）を取り戻せる?というような、ある意味「生き（延び）る力」（されど切ない?）があるような気がしますね?!

I：確かにそうかもしれませんね?!しかし、そこには「痛いの、痛いの、飛んで行けー！」と、ただ言うだけの、つまり言いっ放し、自分勝手さが無い?!そのようにも言えますね?!

D：そうですね！そう言われれば、そういうことになりますね?!だとすれば、多少強引かもしれませんが、それは、何か、今の沖縄の現実を暗示しているようにも思いませんか?!

I：え？それは、どういうことですか？

D：顰蹙を買うことを承知で言わせてもらえば、現在の沖縄の政治状況が、まさにそれなのではないかということです?!詳しいことは、ここでは書けませんが…。

I：それはそれで、ある意味仕方ありませんが、とにかく、彼らの「魂」

は、今、どこに、どのように漂っているのでしょうか?!

D：なかなか難しい質問ですが、一つ言えることは、その大切な「魂」に、どこまで戻れば出会える（元に戻る?）か、そこがポイントだということでしょうか?!

I：でも、それは、やはり人によって違う?!少なくとも、現実感覚としては?!

D：確かにね?!いずれにしても、問題は、これからの若い人達が、そうした思想・価値観をどのように持ち得るかではないでしょうか?!ある時落とした（落とされた?）「魂まぶい」を、もう一度そこに戻って拾うということは、全体としては無理?である?!

しかも、ここが大切ですが、それを落とした（感覚として残る）時期が、たとえ同じ歴史を歩んできたとしても、人によって違うということです?!

I：何だか、かなり複雑な問答になってきたようにも思いますが、それは、良くも悪しくも、これからの若い人達に委ねられているということですね?!

D：そういうことだと思います?!これからを生きる「若者達」が、克服していくしかない?!

#### ④ハイブリッド化?!「ズーム（クラウドミーティング）」による交流・研修の意義?!

I：続いて、NEXT<sup>+</sup>は、今号のテーマを、「現実と非現実のハイブリッド化?! ～『まちまーい』と『ネットセミナー』の両輪駆動!～」としているようです。何ともカッコイイ?表現ですが、どう思われますか?

D：要は、二つの活動を、そのように位置づけようとしているということでしょうが、言いたいことは良く分かります!

確か「ハイブリッド」とは、「種や品種が異なる植物や動物から生まれた子孫」。そして、「ふたつの要素を組み合わせで作られたひとつのもの」ということですね?!

直接的には、後者の意味かと思いますが、問題は、その「一つのもの」が、改めて、一体何かということになりますよね?!

I：そういうことであれば、まさにそういうことになりますね?!いずれにしても、彼らは、直感（時代の感覚?）として、そのように捉えていきたいということでしょうね?!

D：その通りでしょう?!理屈的には、それが「教育協働」のプロモートに繋がるということでしょうが、果たして、その実感はどのようなのでしょうか?!

I：ところで、「まちまーい（地域巡り）」が自らの現実の活動、「ネットセミナー（教育協働セミナー）」が自らの非現実の活動、そういうことになるのでしょうか?

D：言葉の対比としては、そういうことになると思います!ただ、ちょっと気になるのは、「現実」と「非現実」という言い方です!

前者が、自分達が直接創り出しているもの・関係、だから「現実」?!しかし、後者は、そうではないので?、「非現実」?!

I：いやいや、そうなると、両者の関係は、ある意味おかしくなりませんか?!

D：確かにね?!しかし、それは、いわゆる「コンピューター（ネット）上の社会（関係）での出来事」ということですから、そのように表現されるのです?!

I：もちろん、それは分かりますが、今回のような「クラウドミーティング」

では、顔も見えるし、声も聞こえる！そこだけを見れば、まったく通常のコミュニケーションと同じになる?!だったら、それも、一つの「現実」なのではないでしょうか?!

**D**：同感です！要するに、今回のズーム（クラウドミーティング）による交流は、まさに「現実」だということです！しかし、やはり、単純にはそのようにも受け止められない?!少なくとも、現実感覚としては?!

**I**：であれば、「膨らんだ現実」ということでどうでしょうか?!要は、そうした技術のお陰で？、場所・関係の枠（境界?）が外される?!そういうことかと思えます！

ただし、その枠（境界）は、その人の意思によってどうにでもなる?!つまり、それをメリットにするかどうかは、まったくその人次第だということですね?!

**D**：そういうことだと思います?!しかし、そこに潜むデメリット（リスク?）については、今のところ、まったく私には分かりませんので、その辺はよろしく！

とにかく、現在の自分達のハンディな部分を、いかにして乗り越えていくか、私も含めて、真摯に立ち向かっていかなければいけませんね?!

⑤若者の胸の内？いつの時代も同じか?!「教職」につきまとう?「闇」への苦悶?!

I：今号のテーマを、NEXT<sup>+</sup>（今回の担当）は、「もどかしい社会、それでも我らは生きていく!」としました!勇ましくもあり、何とも切ない物言いですが、そこには、一体何があるのでしょうか?!

D：多分?、現在の仕事において、自分（達）が思い描いているものと、目の前の現実とが、あまりにも違い過ぎている?!自分（達）は、こんなもののために仕事をしている（生きている?）わけではない?何か、そういうことを言いたいのではないのでしょうか?!

I：本当に、そうなのでしょうか?もし、そうであれば、そういうことを思わせる何かが、今現在、具体的にあるということでしょうか?!

D：ある意味、その通りかと思いますが、多少教職にも慣れて、周囲の事が、冷静に見られるようになったということかもしれません?!

端的には、理想と現実のギャップが、特定の人間（子ども達も含めて?）、特定の場面・関係において、鮮明に感じられ始めているということでしょうか?!

私もそうでしたが、若い人、とりわけ気鋭の?「新任教師」には、そういうことが、ある時期不可避免的に生じるのかもしれませんが?!

＜新コーナー：新たに始まった、我（ら？）が「精神こころの放浪たび」?!＞

①「老い」と向き合う?!まずは、そこから?!

I：さて、これまで私（達？）は、「東シナ海眺望記」、そして、「じのん逍遥記」ということで、それこそ「徒然なるままに」、折々の想いや情景を、下手な？「短歌」と、最後は、これまた下手な！「写真」も添えながら、それぞれ「エッセイ」として綴ってきました！

これからは、この「I D問答」という形で、それらを引き継いでいこうと思っていますが、Dさん、いかがですか？

D：まあ、一つの形（スタンス）で何年も続けていますと、飽きる？と言いますか、馴れ合いになる？と言いますか、しかも逆に、書かなければいけないから、取り敢えずは仕上げる？そういうことが多くなってきたようにも思います?!

売れっ子の？作家であれば、それはそれで仕方がないのでしょうか、やはりそれは、一体誰のために、何のために書いているのか？そこら辺は、常に大事にしていかなければいけない！そうは思っていますよ！つまり、そこら辺が、少し薄れてきていた?!

I：要は、俗に言う「マンネリ化」が進行してきたということでしょうが、そう言えば、この二人のコンビ？も、そういう意味では、かなり怪しい？ものになってきていたのかもしれませんが？

実は、そういうこともあり、今回、新たな刺激を求めて？このような「問答形式」を考えたのですが…

D：まあ、その形式については、例の若者達と一緒にやってきた「岳陽」の記事作成のところで、既に始めていたわけですから、特に違和感はありませんが、改めて誰のために、何のために喋る（書く）のかという点では、新たなスタートということにはなるのでしょうか?!

I：実際は、まさしくそういうことになるのですが、結局は、自分（達？）のために喋って（書いて）いるということは事実ですので、今回は、改めてそれを前面に出し、形の上では慣れた二人三脚？という方法で、私達？の「精神こころの放浪たび」を始めていければよいのではないのでしょうか？

D：まあ、その二人三脚については、これからは、かなり覚束ない？足取りとはなるでしょうが、とにかく、そこ（底？）にあるスタンスは、「私達？

は、それなりに？年を取ってしまった！そこで、何を思い、何をしなければいけないか？それを考える？」、結局は、そういうことになるのですね?!

今、世間（世界）では、「新型コロナウイルス」の災禍が大変な（信じられない？）状況となっていますが、私自身は、そのように思っています！

I：それはまさに、私達？には、「自らの老い」との向き合い方が大きな課題（テーマ？）となるということでしょうが、そういうことも含めて、これから新たに、あなたと私の二人で？可能な限りの「問答」を続けていければ、それはそれでいいということですよ?!

D：多少複雑ですが、まさにそういうことです！

ただ、まだまだ私達？には、「自らの老い」を、必要以上に悲観的に捉える必要はないのですが、これまで、ここ沖縄の地で様々なことを考え、語り（書き）、そして、やれることを、自分達？なりにやってはきましたが、それなりの限界や諦め？を自覚して、これからは生きていかなければいけない？そういう風にも、感じているということですよ?!

I：そういう言い方は、これまでのDさんらしくない？ようにも思いますが、ある意味よく分かります！

ですから、私の方も、それに呼応して（納得して？）、これからの問答を展開していくことにしたいと思います！改めて、よろしく！

D：否、こちらの方こそ、改めてよろしく！これを、これから（も？）読んでいただく人達には、少々湿っぽい出だしとなったようにも思いますが、とにかく、これが、今の私達？の偽らざる（素直な？）心境であり、立ち位置であるということになります！

それを、是非ご了解の上、ご笑読いただくということになりますが、出来れば、ここで問答するテーマや話題等を予めリクエストしていただければ、単なる「老者の対談（つぶやき?）」にはならないで済むかもしれません?!

（つづく）

② 人は何故？生きる??難問？ではあるが、必ず「人」は、一度は、このことを考える?!

I：さて、そう言えば、過日、ある飲み会？の時に、一風変わった？卒業生であったと記憶している若者、と言っても、もう 40 歳前になっている中年？の男から、「先生、最近私は、『人は、何故生きるのか？』というようなことを考えるのですが、もうかなりの人生を生きて来られた先生に、是非見解を聞かせて欲しい！」というようなことを言われました。

D：まあ、そのくらいの年齢に達したら、きっかけはともかくとして、一度くらいはみんな考えるのかもしれないね?!学生時代からこれまで、その彼がどのような生活（人生？）を送ってきたのかは、私自身は知る由もないのですが、とりわけ就職（仕事）に関わっては、一応それなりの頑張りはしてきたはずですので、その意味での反芻、そうしたことが頭を過るのではないのでしょうか？

I：尤も、その飲み会？は、この度の「新型コロナウイルス」の騒ぎで、予定されていた集まり（大学のあるコースの終了及び同窓会？沖縄の感染者が、まだ3人の頃!）の「崩れ飲み会？」（ごくごく一部の残念会!）であり、途中から参加したその彼は、量はあまり飲んではいなかったようですが、気がつくと、私の席の隣に坐っており、この度の騒ぎがきっかけで、今の仕事（確かブライダル映像関係？）の先行きが思わしくなく、それも手伝って、そのような自問をもったというようなことでした！

D：おそらく？酒の力もあって、そのような、ぶしつけな？質問をしたのでしょうが、やはり、どこかにそうした悩み？を、今持ち始めているというようなことは確かかも知れませんね?!しかも、今の仕事の関わりで…？

I：彼は、その後、私の「岳陽舎」を訪ねて、改めてその話をしてみたいとも言っていましたが、今のところ連絡はしてきていませんので、多分その時だけの？衝動的な発言ということでしょう?!ただし、気にはなっていますが…

D：まあ、そうしたテーマは、本当に切実な状態でしたら、逆に、何度も他人に言えるものではないかもしれませんよ？ましてや、その人の家を訪ねてまで！でも、きっとそのようなことを考えていたことは、事実でしょうね?!



I：実は、私も、何故か？そのように思えます！とは言え、たとえ私の見解を述べたとしても、彼の心情（不安？）を救えるかどうかですが、まったくの自信はありませんけどね?!

D：それはそうでしょうね！議論（哲学？）好きの、言葉遊びで済めばよいのですが、そうもいかないのは目に見えています！それはともかく、Iさんは、それについての見解があるということですか？

I：一応、それなりにここまで生きてきたわけですから、あると言えはるのは当然ではありませんか！みんな言わないだけで…それとも、Dさんは、ないとでも言うのですか？

D：いやいや、私も、あなたと共にここまで生きてきたのですから、あるのは当然です！むしろ、あなたより論理的に、時には詩情的？にも表現できるのかもしれませんが？（笑い？）

I：私の方は、東京在住時代に、仕事を通じて、そのことを学んだ（知った？）のですが、端的には、「幸せを求めて（になりたいから）」生きている！そのように理解しています！もちろん、その幸せの素が何であるのかが重要かと思いますが、少なくとも「財（金）」「健康（体）」「愛（人）」が絡んでくることは確かかと思います！そして、それがない（少ない）場合に、その大切さが実感される？

D：論理的？には、少しおかしいようにも思いますが、少なくとも「生まれたから」という理由だけで生きるのではなく、「何かを求めて」ということが言えれば、人は幸せなのだということですね?!ただし、その幸せの三要素？の内、「財（金）」「健康（体）」は、自分の努力で何とか得られるかもしれませんが、もう一つの「愛（人）」は、そうはいかないものでもありますね?!

（つづく）

③ 今回の災禍（パンデミック）が教えてくれること?!「抗原－抗体」の話を絡ませてみると?!

I：時期が時期だけに、ここでは、今般の新型コロナウイルス感染症に関わるものは、出来れば避けたいと思っていましたが（不謹慎となる?）、たまたま見ていたテレビ番組に触発されたこともあり、いわゆる「抗原－抗体」の意義?みたいなものを考えたいと思ったのですが、いかがですか?

D：そう言われても、私も、そんなことを考えられるような心境ではありませんので、かなり複雑な思いとはなりますが、一応、どういうことなのか? 取り敢えずは、その辺りを聞かせて下さい!

I：そうですね! 要は、今回の災禍（パンデミック）は、「被感染者」、なかでも「そうなっていることに気がつかない」、「自分が、その感染源である抗原（ウィルス）を持っていることが分からない」、そういう人達の意識や行動が、結果（被害）を大いに左右する! だが、いずれにしても、最終的には、そこに出来上がる「抗体」によって（群→集団免疫）、事態は収束（終息?）する! ということですか?!

D：だから、「抗体（群→集団免疫）」が重要であるし、一刻も早く、それを人々（社会）が獲得（構築）していくことが求められる! ということでしょうが、趣旨は分かりました! 端的に、それが、社会（世界）の大混乱を集結させるということでしょうが、問題（課題）は、そのプロセスを、どう創っていくか? 単純に言えば、被感染者の発見・治療・回復と、未感染者の予防・疑似感染化（ワクチン投与）を、いかにうまく同時進行させていくかですよな?!

I：しかし、今回のそれには、治療態勢（体制）、そして、治療薬・特効薬、ワクチンも、現段階ではまだまだです! だから、大変な状況となっているのですよね（医療逼迫や社会・経済的大打撃）?!

D：まあ、その辺については、これ以上、何もしていない? 私（達）が述べることはありませんが、出来ることは、可能な限り早い収束（終息?）を期待するのみということになります! ただし、教えられることは、それこそ無数にあります（ました）ね!

I：例えば、どういうことがあります（ました）か?

D：政治家や「長」のリーダーシップのあり方とか、それこそいろいろあります（ました）が、大切なことは、そこから何を学ぶのか！ほとんどは、自分事として災禍が降り掛かってきた時にしか実感出来ない（本気で考えない？）ということですが、社会（人）は、ある意味大きな代償を払わなければ、なかなかうまく動いてはいかない？そういうことでもあるということですかね?!

I：ということは、この「抗原-抗体」の話は、結局は、そのようなところにつながっていくということですね?!考えてみれば、昔からそういうことは言われてはきたのですが、今回の事態は、改めてそういうことを、私達にまざまざと見せつけている、そういうことでもあるということですね?!

D：私が、ここでそういうことを言うのも、かなり面映ゆいのですが、今回の災禍（パンデミック）は、私達の様々な日常を、改めて冷徹に（かなり残酷に？）教えてくれた?!その教訓（学び？）を、今後どのように生かしていくのか？そこが、別な意味で問われるということでしょうか?!!

I：言われてみれば、そうなのですが、例えば、件の「三密」の回避が大切だということで、不要不急の外出は控えましょうと言われても、なかなかそのようにしない人がいる！みんなが協力して、そうならないようにしようとしても、完全にはそうならない?!だから、それは「悪（悪意？）」?!

D：言いたいことはよく分かりますが、それは、社会（コミュニティ）のあり方の問題です！ただし、そこには、ある種の「抗体？」と見なされるものもあります?!意識や行動の変容です（「ワクチン」機能？今回、いくつも提唱された？）！全員を一度は感染させる、そこに抗体（集団免疫）ができる？それだけが方途（解決策？）ではないということですが、そういう意味で、人体の話と社会（コミュニティ）の話はつながってはいるのです?!

（つづく）

④「具体と抽象」について！それは、「理想」と「現実」に、いかに関わるか？！

I：ところで、せっかく？心機一転、新たな形で始めている、この「ID問答」ですが、長引く新型コロナウイルス感染症拡大のことで気が滅入っていることもあり、なかなか前向きな問答意欲？が出て来ませんね？少しは、収束（終息？）に向かってはいるようですが…？

D：そうですね！いずれにしても、私からすれば、そうした社会（世間？）のことについては、あまり深入りはせずに（しても、自らの無力が嫌になる？）、もう一つのシリーズ（「教育協働への道」）もありますので、こちらでは、どちらかと言えば、非（超？）日常的なテーマの方がよいですねえ？！

I：おそらく？そういうこともあって、今回、このようなテーマを掲げたのですが、実は、先日、行きつけの「岬公園？」の一角で、ギターの練習をしている中年？男性がいたのです。まさしく、自らの世界（時間）を楽しんでいられるようでした！私は、一服したかったこともあって、その人が演奏している階段の後ろ近くに座ったのですが、すぐにその人は、私の方を振り向いたのです！

D：ということは、邪魔をしたのですかねえ？

I：否、そういうことではなかったと思います！ただ、後ろの方で、誰かが自分の演奏を聞いていることが気になり、振り向かれたのだと思います！

D：それでどうなったのですか？

I：譜面を見ながら、丁寧に（とつとつと？）弾かれていたのですが、驚いたことに、その曲は自作のものだったということでした！「歌詞はないのですか？」と咄嗟に尋ねてみたら、「ない！」ということでした！自作の曲であれば、普通は歌詞もあるだろうと思ったのですが、そうではなかったのです！

D：いわゆる「シンガーソングライター」だと思ったのですね？

I：そうなんです！しかし、ただそれだけでしたら、ここで話題にすることも無いのですが、その人は、「私は『抽象』が好きで、『具体』は好きではない！だから、歌詞はない！」、そう答えたのです！「曲」は抽象で、「詞」

は具体という、彼の説明（理論？）に、何故か興味を覚えたということです！

D：音楽についての難しいことは分かりませんが、そこに、彼の人生観（価値観）があるのではないかということですね?!つまり、「具体」は嫌いで、「抽象」が好きという人生観（価値観）、その背後に何かあるのではないかということですね?!

I：まさに、そうなのです！例えば、「具体」というのは、ある種の「現実」、そして「抽象」は「非現実（理想?）」、そういうことになるのでしょうか？要は、「現実」というのは、彼にとっては、あまり見たくないもの、あるいは思い出したくないもの、そういうようにも思えるのですが…？

D：なるほど、そういうようにも言えますか?!若い時に、ある意味理想に燃えて、仕事あるいは活動に打ち込んできたものの、やがて、そこにある厳しさ（醜さ?虚しさ?）に負けてしまった？

I：ひょっとしたら？学生運動等に足を突っ込み、結局は潰れてしまった？見たくない世界を見せつけられてしまった？だから、「現実」＝「具体」は嫌い（遠ざけていたい?）、逆に、「非現実（理想?）」＝「抽象」は好き（自らの世界あるいは思いの中に居れる?）、ということなのかもしれませんね?!

D：まあ、私達には、そういうようにも思えるのかもしれませんが、ひょっとしたら、純粹に？音楽の世界では、「曲」と「詞」の関係は、まさに「抽象」と「具体」の関係なのかもしれませんよ？逆に言えば、「詞」がつくことによって、その「世界（時間）」は、ある特定の「場所（光景）」あるいは「心情（物語）」を指すことになる?!だから、作曲者自身は、その「特定」を敢えてやらない？その特定は、それぞれの聞き手に委ねる？そういうことかもしれませんね?!あるいは、ただ単に、その音の世界（メロディー）が楽しい？そういうことかもしれませんよ?!

（つづく）

⑤ 思い知らされた「無知」と「無力」?!だけど、それを知ったからと言って…?!

I : 今回も、「コロナ禍」の話題に戻ってしまうようで、申し訳ないのですが、今、私達の社会生活の様々な局面（多くが、その「裏面」?）が、実に、嫌と言うほど見せつけられていますよね?私の 68 年間の人生の中で、こんなにも多面的に、社会の様相が見えてくることはありませんでした!

D : 確かにそうですね!全世界的にも、本当に恐ろしい事態が同時進行していますし、とにかく、これほど文明が発達した社会において、まだこんなことが起きるなんて?と、今更ながら思い知らされていますよね!まさに、「知らぬが仏?」とは、このことかもしれません!

I : どんなに科学技術が発展し、医療や保健衛生面での知識や対応能力が向上していても（ただし、終わりはない?）、まったくの無力か、ほとんどゼロからの対応で立ち向かわなければいけない?そういうことが、現在も（これからも?）あるということが、ある意味信じられないということですよ?!

D : 様々な事態、事件やリスク（その中には、とても想像できないような悲劇?もある?）が、それこそ毎日のように報道されていますが、今回のそれは、おそらく人類が誕生した時から絶え間なく続けられている、先住の?ウィルスとの闘いということで、その処置の無さに深い嘆息さえ覚えます!

I : だから、「共存」することが大切であるということになってくるのでしょうか?それが、今回は、「ウィズコロナ」というような表現（決意?）ともなっていた?!

D : 確かにね?!しかし、それは、見方を変えれば、傲慢な?人間の「妥協」（仕方なさ?）ともなっている?!それは、人間社会の、ある種の「エゴイズム」とも言えるもので、「共存」と言っても、一方的な「独りよがり」、あるいは「身勝手」ともなっているのではないのでしょうか?!

I : 「妥協」とか「独りよがり」とか、あるいは「身勝手」とか?それは、どういう意味ですか?地球上のあらゆる生物が、それ自体、等しく生存する権利を有している?したがって、その他の生物（生態系）を、人間社会が制圧、コントロールすることは、ある種の「傲慢」であり、したがって、それは完遂することはない?!ということですか?

D：否、上手くは言えませんが、あくまでも今回のそれは、人間の側の、一つの、しかも一方的な「納得」の仕方であり、それは、必ずしもすべての人にとっての「ウィズ」ではない？ましてや、ウィルスの側にとっては?! そのようにも思えるのです?!

I：冷静に言えば、そうかもしれませんが、だからといって、それを言ったら元も子もないのではないですか？「妥協」(仕方なさ?)とは言っても、そうした中で、人間の側が最善を尽くすという意味であり、そのための方策を探り出していくことは、絶対に必要だということではないですか？

D：もちろん、そういう意味での「ウィズコロナ」だとは思っています！ただ、そうは言っても、私達は、簡単に「ウィズ〇〇」とは言えますが、一方で、そこに、多くの人達の「生死を賭けた奮闘や使命感」、そして「悲しみややるせなさ?」、そうしたものがいかに込められているのか？そう簡単に、「ウィズ」と呼んでいいのか？そういうことも、少し(斜に構えて?)思うということですか?!

I：そう言えば、これは、まったくの私の戯事？ですが、今回の推移の中で、私自身の「無知」とか、「無力」を、つくづく思わされました！「新しい日常を！」とかも言われていますが、その「日常」は、私にしてみれば、ほとんど何も変わらない日常なのです！

D：「ウィズ〇〇」とは程遠い？そういうことでしょうか、しかし、それは、ある意味仕方がないことです！今更？そういうことを言っても、それは明確な事実ですし、それこそ、そのこと自体を自覚して、そこで自分のやりたいこと、やれることをやる！そういうことではないですか？そのことを、改めて、今回の「コロナ禍」が教えてくれた？そういうことで、いいのではないですか?!

(つづく)

⑥「人の値打ち」とは何か?!やったこと、やってきたこと、あるいは、今やっていること?!

I : ところで、今回の「コロナ禍→ウィズコロナ?」の推移の中で、これまではまったく考えてもみななかった（分からなかった?）ことがあります!

D : ほう、それは、何でしょうか?

I : それは、様々な形で知らされる（マスコミ報道等で）、関係の人々、とりわけ政治家（なかでも地方自治体の長?）、医療関係者（医師・看護師、保健所等の職員）等の存在と、その仕事振りということになりますが、「人の値打ち」が、その人の職業（仕事）に根差すものであれば、まさしく今は、そういう人達の「値打ち」が、否か応でも高まっていつているのではないのでしょうか?

D : 確かに、想像を絶するくらいご苦労されていますよね!そして、頭の下がるような使命感、言動を見せられていますよね!普段は、ほとんど、そういう人達の仕事振りや職業意識のことは分からないわけですが、今回ほど、それらがリアルに感じられることはないですね?!

I : そんな中、まだ?マスコミ報道の前面には出ていませんが、ある政治家の学歴詐称?の問題があることを知りました（何だか泥仕合のようでもあるようですが?）!そんなこともあり、改めて「人の値打ち」みたいなものを、少しだけ考えさせられたということにもなりますが、今回の、様々な人達の存在、活躍、そして、一方で見られる失望や幻滅?も絡めて言うと、何が、その「人の値打ち」なのかということになるのでしょうか?

D : その前に、その学歴詐称?のことに限って言えば、何故、その人がそうしたのかということが、頭を過りますね!単なる記憶違いであればよいのですが、本人の明確な意思でそうしたのであれば、やはり、そこは問われる必要がある?!ただし、社会（世間）は、その本質的なことは問わない?!

I : それは、どういうことですか?

D : 何でもそうですが、まずは「詐称（嘘）」であれば、それは犯罪（悪）です!だが、そうしてまでも、何かを手に入れる必要がある?否、それによって、何かを成し遂げることができる?そういう世界（メカニズム?）が、



現実にあることは事実なのですが、そこまでは踏み込ま（め？）ない?!

I：昔のように（今も?）、「学歴」が、その人の、言わば人生を大きく左右するということであれば、その学歴誇示に汲々とすることは、ある意味当然ですが（「学歴社会」は、そうしたメカニズムの産物である?ただし、それは「学校歴」ではある?）、今の立場（実績?）で、そこまでやることなのか?

D：もちろん、そういうことまでして、よくやるなという人もいるでしょうが、その時は（政治家として登龍したい場合は?）必死（無我夢中）だったのでしょうか?!少なくとも、その立場に立つまでは(それだけの理由があった?)?!もちろん、これは、それが事実であった場合ですよ!

I：とにかく、私が今思うことは、「人の値打ち」とは、ある意味?その人が、「過去にやったこと」、「これまでやってきたこと」、そして、「今やっていること（ある意味、これからやること?）」、そうしたものの総体だと思っていますが、ある人達には（特に政治家?）、「過去にやったこと」、「これまでやってきたこと」が標的?にされ、しかも、それが、社会（世間）の一方的な評価によって?、如何ようにも裁断される?!仕方がないとは思いますが、それが何とも、切ない（不憫?）?!

D：確かに!そこで今、私は、それらが、どのような評価（裁断）が与えられようとも、「今やっていること」が最も重要であり、それがまた、その人への評価のすべて（尊敬?）であって欲しい!そして、それが、他ならぬ自らへの評価（自尊?）ともなる?それが、自らの人生への「納得」ともなる?!そのように思い始めているのですが、残念ながら、社会（世間）は、そこまでの深い?評価はしない?その懸隔（冷たさ?）が、今の私には、何故か虚しい?そういうようにも思われます?!

（つづく）

⑦「意味あるもの？」と「そうでないもの？」、その「混在？」が「今」を創る?!

I：気がつけば、とうとう7月に入り込んでしまいました！この年（令和2年）も、既に半分が過ぎたことになりましたが、そのうちのほとんどが、「コロナ禍」とともに過ぎ去ったように感じます！しかも、何が克服され、何が残っているのか？まだまだ見通しの無いままに、月日が過ぎ去っている?!

D：そうですね！こんなことが、本当に起こるのだな（起きてはいけない？）と、今でも信じられないのですが、社会・経済生活の混乱は想像以上のものがありますね?!まあ、これについては、多分？、我が国では、何とか最悪の事態は免れていると言えそうですが（ただし、今後、それもどうなるかは分からない？しかも、いわゆる「緊急事態宣言」解除後は、かなり怪しいものともなっている？）?!

I：さて、そんな中で、これも、そのコロナ禍からの派生ですが、その対策が、結果として、「意味あるもの？」と「そうでないもの？」に分かれていった？そんな気がしているのですが、どう思いますか？例えば、例の「PCR検査」ですが、要は、それを（沢山？）やっても、やらなくても、結果は同じであった？しかも、それは、それなりに成功したということでもある?!

D：さあ、それは、どうでしょうかねえ？そもそもそれは、（沢山？）やった方がよかったのでしょうか、それがやれなかったから、そうした（せざるを得なかった？）?!結果的に、（沢山？）やらなくてもよかった?!そういう論理（後付け？）になっているのではないのでしょうか?!

I：そう言われれば、そのようにも思いますが、言いたいことは、この人間社会では、どんな分野でもそうだと思いますが、「意味あるもの？」と「そうでないもの？」に分かれていってしまう？しかし、それらは、実際上は、歴然と判別できるものではなく、まさに混在しており、しかも、多くは、状況次第（結果オーライ？）で、その評価が決まる？それが何とも、恨めしい？そういうことです！

D：ある意味、それは、人間社会の宿命？ということでしょうが、その存続のためには、そうした二分法的な受け止め方、判断（決断？）が必要だということでしょうね?!それが、「知恵」でもある?!

I：よく、「この世には、意味のないものなぞ何一つない!」、そういうことが言われますが、実際は、そのようには感じられない?しかも、そうしたことを考えていない人達も、現実には一杯いる?!

D：私も、実は、そのように思っている（言っている）人間の一人なのですが、それは、ある意味願望（ある種の反省?）であって、「現実とは、そうではない?!」と、心のどこかでは思っている?!

I：とにかく、その判断は、基本的には身勝手な?個々人に委ねられることとなり、その個々人が、何が意味があって、何がそうでないかの判断をする?不平不満、批判や文句ばかりの人もいる?!!したがって、それは、ほとんど混沌であって、收拾がつかない?!

D：だけど、ある特別な場合（絶対に、何らかの決断をしなければならない時）は、そこに、組織や集団の、責任ある（誠実な?）リーダーの裁断がなされる（「緊急事態宣言」の発出とか!）!とは言え、実は、彼らも、その個々人の一人でもあるわけなので、その意味で（法律や立場上の責任だけでなく!）、その人の生き方や価値観が、大きな影響力（決定力）をもつ?そういうことにもなる?!

I：それが、首相（or 大統領）であったり、地方自治体の長であったりということですね!しかも、そういう人達を、少なくとも形の上では、他の個々人（国民/住民）が選出している!それがうまくいけばいいのですが、そうでない場合は、目を覆う惨状ともなる?!

D：結局、それが、「意味あるもの?」と「そうでないもの?」の混在の現実ということになると思いますが、その判断（決断?）を、誰が、どのように行うのか?しかも、本当は、この世には、意味のないものはない（いない）!そういうことですが、あることにおいては（具体的な解決が求められる場合には）、そこが峻別されてくる?そういうことかもしれませんね?

（つづく）

⑧「宗教」をどう思うか？だが、私（達？）には、「客観的な総括？」は出来ない?!

I：この話題は（も？）、これまで、あまり触れたくない？そう思ってきましたが、ある人達との出会い（再会？）の中で、今、少しだけ？触れてみたい？そういう思いが募ってきています?!

D：そうですか？実は、私も、「宗教」に関しては同じ思いでしたが、改めて、その、ある人達との出会い（再会？）というのは、具体的には、どういうことである（った）のですか？

I：詳しいことは、ここでは言えませんが、私が知っている、ある市の職員（女性）が、とある宗教団体（キリスト教関係）の信者ということで（実は、昨年知った!）、過日イベント？の参加の誘いがあり、彼女らの活動（生き様？）を、改めて目の当たりにしました！その人の、職場での仕事振りからは、微塵にも、そうしたことが感じられないのですが、まったく違う人のように見えるのです！通常は？、何らかの素振りはあると思うのですが、まったくそういうことはないのです（多少偏見かな？）！

D：つまり、そのギャップに驚いた？そして、彼女が、そうなったきっかけは、いつ、どのようにあったのか？そういうことが不思議であった（知りたい？）！そういうことですね?!

I：まあ、そういうことですが、驚いたのは、実は、それだけではないのです！彼女だけではなく、少なくとも、私の知っている同市の女性が、そこに5人もいるのです！彼女らは、すべて、私が関わった、その市の社会教育関係職員あるいは委員である（った）のです！

D：そうですか！それは、それで、本当に驚きですね！現在（or 当時？）の仕事や活動、それ自体に、彼女らが、そこで結びつくものはないのであれば、そこには、一体何がある（った）のでしょうか?!

I：聞きましたら、それぞれある時期に、誘い、誘われた関係でもあったみたいです?！そして、そこに共通しているのは、それぞれの苦境の時に（家族とか、病気とか、人間関係等で、大いに悩み、苦しんでいた?!）、教会に行き、救われたというようなことがあるようです?!

D：ある意味、「宗教」とは、そうしたものが媒介（きっかけ）となるのだとは思っていましたが、まさに、彼女達もそういうことなのですね?!

I：そういうことです！今、思い返すと、「ああ、あの頃か？」と思えるようなこともあります、とにかく今、彼女らは、本当に明るく、そして、信念を持って活動されている（現在の仕事の方は分かりませんが?）！悩みや苦しみから解き放たれた、そういうように振る舞われているのです?!

D：それが、多少失礼かもしれませんが、「信じるものは救われる」ということかと思えます！しかし、そういった、今では、多少陳腐となった？言質を超えて（超越して?）、その人達の人生（幸せ？生きがい?）がそこにある?！まさに、そういうことであれば、それでいいということになりますね?!

I：まったく、その通りかと思えます！私としては、そのことだけは見失いたくはないと思っての発言なのですが、一方で、あまりにも身近か過ぎて、何とも言えない気持ちでもあります?!

D：余談ですが、例の「隠れキリシタン」（最近では、「潜伏キリシタン?」）のことも、最近、改めて知りました！ただ、その人達（長くて、深くて、重い労苦をなされたであろう?）が、そのように信じ、生きてこられたということに対しては、何も言うことはないのですが（それどころか、多少羨ましくもある?）、それが、政治（勢力）や金と絡む部分があれば、やはり私にはどうかとは思われますね?!

I：否、少なくとも、彼女らは、まったくそういうものとは縁遠い人達です！私は、そう思って（信じて?）います！何故なら、彼女らが、どういう仕事、活動をされてきたかを知っている（つもりだ?）からです！そして、何よりも、そのことを、他人がとやかく言うものではない?!

D：要は、公的な仕事と私的な活動は、まったく別な世界であり、自己の内面的な部分は、まさに「信仰」という形で実現されている?！それでいいということですよ?!

（つづく）

⑨ 行っただけで感染する？そんなことはない？そこに、ある種の「煙幕」が張られている？！

I：今回は、直接？コロナ禍の話題になりますが、気になる用語として、「市中感染」というものがあります！感染者が、どこで感染したのか分からない（特定の場所が見つからない？）ということでしょうが、それなら、「感染経路不明」とどう違うのか？いずれにしても、気になるのは、東京へ行っていたとか、どこそこへ行っていたとか、あたかも「そこへ行ったから感染した？」、あるいは「そこへ行っただけで感染した？」、というようなメッセージにもなっているように思うのですが？！

D：もちろん、そこで、何らかの「三密（密閉・密集・密接）状態」があり、運悪く？感染してしまったということでしょうが、その情報は、あまり正確（得策？）ではないということですね？要は、その場所（現場？）が、ある場所（施設・職場・店舗・家庭内）ではないということでしょうが、ある種の「煙幕」ともなっているということですよ？！だから、不安も掻き立てられる？！

I：そういうことです！現在、第一波のくすぶり（←出口戦略の失敗？）か？新たな第二波の到来か？専門家の意見も分かれているようですが、感染者の増大という意味では、明らかに後者の方だと思うのですが（爆発的な再燃？）、どう思いますか？

D：捉え方（定義？）の違いと言えはそれまでですが、問題は、第一波のくすぶりか？新たな第二波かということよりも、その対処の仕方を、抜本的に代えなければいけないということかと思います！

I：それは、どういうことですか？

D：つまり、第一波の時は、「医療崩壊」を防ぐために、何が何でも感染者数を減らす！他国の「ロックダウン（都市封鎖）」とまではいかずとも、件の「三密」を避けるために、「移動自粛（就業・営業を含む）」（8割削減）が叫ばれ、一応はそれで、最初の？危機は乗り越えたわけですが、社会・経済生活が壊滅的な打撃を被り、保障（補償）のための莫大な財政出動が余儀なくされたわけですよ！

I：いわゆる「緊急事態宣言」がそういうことであつたのだと思いますが、

しかし、これでは、日常（基盤）が維持できない？国や自治体がもたない？保障（補償）といっても、企業や店舗等の救済には程遠い？まさに、社会・経済生活の全体が崩壊する？だから、「緊急事態宣言」を解除し、リスクを抱えたままではあるが（ワクチンや特效薬が出来るまで？）、日常を再開する（→ウィズコロナ）！

D：結局は、「防止／治療（命）」と「経済」の両立を図るということですが、課題は、その対策に、どのような質的違い（もちろん量的なものもあるが！）をもたせるのかということだったかと思います！勝手ながら、その部分への切り替え（覚悟？）が、まだまだ不十分、不確かである?!特に、最重要課題は、そうした中で、どうしたら「医療崩壊」が防げるかということだったかと思います?!

I：具体的には、どういうことですか？

D：つまり、たとえ感染者数が増えても（当然そうなる?→なっている!）、「無症状・軽症者」と「中等症・重症者」への対応を峻別し、「隔離療養体制」と「医療体制」を、別々に構築・整備することが求められる?!そこをきちんと見定めていけばよいということでしたが、なかなかそこに至らない?!

I：だから、再び？第一波のような懸念と混乱が先行する？そういうことですか？

D：そういうことです！そこで、国（法律の根拠）でそれがやれない場合は、地方自治体の権限（地方自治）で、それをやればいい！大事なことは、検査一辺倒になるのではなく（数を増やせばよいということだけではない!）、一方で、この感染症の「火種が社会に残っているという事実と完全な封じ込め(すべての感染者のあぶり出し)は無理であるという現実を受け入れ、しっかりと各自・各事業所が予防策を徹底した『新しい生活様式』を行うこと」、そして、「(地方)行政」が、それを誘導し、支援を行う（厳しい措置も必要に応じて!）、そういうことなのではないでしょうか?!

（つづく）

⑩「二度あることは、三度ある?」「三度目の正直?」これを、どう解釈すればよいか?!

I : よく、我々（世間）は、「二度あることは、三度ある」とか、「三度目の正直」とか言っていますよね!あまりにも世俗化?されていて、格言としては、正反対の意味のような気もしますが、何故か、双方とも、実際にはありかなとも思わせるのですが、どうですかね?

D : 確かに、どちらも、それなりにありますよね?!でも、どうして、今、そのことを持ち出してきたのですか?今さら何を?、というようにも思えますが…?

I : 多分、そう来られると思いましたが、実は、今回のパンデミック（新型コロナウイルス感染症）対応に関わって、ふと、そのようなことを思ったわけですが、少し軽薄?な論ともなりますかねえ?!

D : いやいや、それはどうですかね?ひょっとしたら、正鵠を射た問答になるかもしれませんよ?事実、今、それが、現実的な課題として見え始めているのではないのでしょうか?!

I : 多少驚きですが、それは、具体的にはどういうことになりますか?

D : 要するに、一回目の波の時は、とにかくどういう病気なのかも分からず、その勢威に圧倒された!医療崩壊、非常事態宣言、社会・経済生活の破綻、そのための各種の保障問題。したがって、たまらずの解除宣言。だが、さらなる感染拡大、そして、再びの医療崩壊、非常事態宣言の発出…?言わば、同じサイクルの繰り返しになりつつある?!しかも、その波は、第三波まである（それ以上もある?）とも言う?!そうなれば、まさに「二度あることは、三度ある」であり、しかし、その中で、その経験（反省?）を活かした「三度目の正直」ということもある?そういうことです!

I : 変な言い方になりますが、そこでは、まったく同じようなことが繰り返されるかもしれないし、次は、同じような轍は踏まない!そういうこともあるということですね?!

D : まあ、そういうことですが、問題は、二度の?経験（反省?）で、被害・混乱を最小限にするためには、どのような対処をすればよいのかというこ



とですよ?!改めて、身を持って痛感させられたのは、完全な封じ込めは、今のところ不可能であるということ、したがって、どこかで、現実的な線引きを行う必要があるということ、そういうことですよ?!

I：もちろん、どちらにしても（移動制限も移動解除も）、完全なる成功はないこと、つまり、どちらも、それなりのダメージ・混乱は避けられないということ、そのことを前提にして、次に備えることが重要だということですよ?それが、単なる「二度あることは、三度ある」ではなく、まさに「三度目の正直」ということですよ?

D：全くその通りかと思います!ただし、いずれにしても、そこで懸念されるのは、一部の?心ない（本当は〇〇など言いたいのであるが!）の人達の意識と行動です?!そこもまた、残念ながら、一つの経験値として、しっかりと前提にしておく必要がありますね?!

I：困った、迷惑な人達ということかと思いますが、そういう人達が、人間社会には、一定程度いる?!考えてみると、腹が立ちますが、それが、この人間社会の冷徹な事実とも言えますよね?!

D：まあ、とにかく、二度目の今回で（まだ続いているが!）、かなりの人が、やはり駄目なものはダメだということが、改めて分かったはずですから、たとえ第三波が来たとしても、その被害や混乱、そして、それに起因する不平・不満は、最小限にすることが出来るのではないのでしょうか?!

I：そうであればいいのですが…?

D：そうですよ!名も無き多くの良き人達は、まさにそうして生きているのですし、そうした人達の存在が、この社会のあり方を決めてきたことは、多分歴史の真実です!そうこうしているうちに、有効なワクチンや治療薬も出てくる?!つまり、それが、「三度目の正直」となる?!

（つづく）

⑪「教育」と「学習」の関係！そこでの、「社会教育（行政）」の正当な役割が見えていない?!

I：突然ですが、「教育」と「学習」の関係について、あなたと少し問答しておきたいのですが、よろしいでしょうか？

D：本当にそうですが、何か、訳でもあるのでしょうか？何か、そういうことを考えさせるきっかけ（事件?）でもあったのでしょうか?!

I：いやいや、特にそういうものはありませんが（実は、ある?）、一度はここでも、それについて喋っておきたいという、言うなれば、私の、これまでの教育思惟の総括みたいなものです？

D：そうですか！ただ、そういうように言われれば、ある種の贈る言葉（遺言?）にもなるような気もしないではありませんが、それはともかく（まだまだ先の話!）、あなたの、これまでの仕事・活動の総括（メッセージ?）ということであれば、それはそれでいいのではないのでしょうか！

I：要は、私自身が、いわゆる「社会教育」の世界に入れてもらい（ほとんど偶然！だが、それによって助けられた!）、そこで「生涯教育（学習）」の理論（世界的潮流?）に出会ったことが、その後の私の、仕事（研究?人生?）の基本スタンスとなっているということですが、そこで得たのが、まさに「教育」と「学習」の正当な関係理解であったのです！

D：しかし、その関係については、何か、「両者は対立するもの」、あるいは「教育よりも学習の方が好ましい」というような考え方（風潮）があって、結局は、「生涯教育」ではなく、「生涯学習」ということになったわけですが（挙句の果てに、「社会教育」が「生涯学習」ともなった?）、一方が、一方を否定するのではなく、双方の関係を適切に実現させるという考えやしくみづくりが重要であった?!

I：そういうことです！しかし、大勢は、「学習」の方にシフトし、何か「教育」はよくないもののようにもなってしまった?だから、「社会教育」の方も、徐々に遠景に退いていってしまった?!

D：そのことが、一方では悔しいが、一方では、別コーナー（「教育協働への道」）で、私が書いているように、現在、折角の、意義や可能性のある取り組み

がなされ始めているのに（「CS」や「協働のまちづくり」等）、「教育」と「学習」の関係が適切に咀嚼（理解）されていないがために、望ましい形やしくみが、なかなか実現され得ていない！そういうことですか?!

I：まさにその通りなのですが、一体、何故、そのようになるのでしょうか？

D：表面的には、担当部署の課題意識、守備範囲の問題ということになるのですが、根本的な問題は、「生涯教育（学習）」の理念が、正しく広がっていないということです?!

I：それは、具体的には、どういうことでしょうか？

D：詳しいことは、ここでは喋れませんが、人々の生涯に亘る学習（これが、本来の「生涯学習」の意味!）、これが、これからは重要であることは論を待たないわけです！そこで、問題は、それを、どのように支援（鼓舞・推進）していくかということですが、端的に、そこでは、社会にある全ての教育・学習資源・機会の有機的な繋がり（連携・協力）が必要だということです！あっちか、こっちかということではない！

I：でも、そうなっている?!そして、そこに、「社会教育（行政）」の意義や役割（働き）が十分に採り込まれていない？だから、うまくいかない？と言うより、望ましくない?!

D：そういうことです！ある意味、『教育』は、『ひとづくりとまちづくりの往還（循環）』の中で成立する」とも言えるのです（「人格の完成」と「良き社会の形成」）！そして、「社会教育」は、実は、その双方の要素（使命?）を有しながら、学校（ひとづくり）と地域（まちづくり）に関わっているのです！つまり、その「往還（循環）の促進役」（コーディネーター／プロモーター）なのです?!だから、重要なのです！それが、「教育と学習の関係」をより良いものにする！そういうことなのです?!

（つづく）

⑫「教育」と「医療」は「神の域」?!より良いものを求めながらも、常に混乱・試行錯誤する?!

I：これまた、突然ですが、「教育」と「医療」は、ある意味「神の域」と言えるのではないのでしょうか？今回の「コロナ禍」の中で、そんなことも思ったのですが、いかがですか？

D：「神の域」とは、いささか大袈裟のようにも思えますが（言葉で幻惑させようとしている？）、どんなに良かれと思っても、すべてが良い結果をもたらすとは限らない？確実な処方箋も、特効薬も、万能薬もない？だから、先のことは分からない？しかし、やらなければいけない！信じてやるしかない！そういうことですかね?!

I：まあ、そういうことですが、双方共に、その仕事の性質（成果）が、他の分野のものとは、質的に違う？そういうことのように思います?!より良いものを求めながらも、常に混乱・試行錯誤しなければならない?!

D：しかも、それは、端的に、「人間の命」「社会の存続」に直結する？そういうことでしょうかね？だから、「聖職」とかいうような言い方がなされる?!それは、社会（人間集団）にとって、最も大切なもの、だから「神聖なもの」？そういうことになるのでしょうかね?!

I：そんな中、ある意味当たり前のように、双方には、「先生」と呼ばれる人達がありますよね！何か、それと関係があるのでしょうかね?!

D：私は、大いに関係があると考えていますが、しかし、現実には、どうなのでしょうかねえ？

I：それはともかく、例えば、「教育」においては、「先に生まれた（年上？だ）」から、様々なことを知っている！経験している！そして、それを上手に教えてくれる！だから、「先生」？

D：もちろん、そういうことでは、実は、私は、「先に生まれた（年上？だ）」からではなく、「先を生きている」、それが「先生」なのではないか?!そのようにも捉えています！ただし、余計なことですが、私自身（あなた？）に、そのことが出来ているとは到底思えません（笑い？）！

I：もちろん、私（達？）の場合はどうでもよいのですが、ちなみに、他の分野でも、その、「先生」と呼ばれる人達がありますよね？弁護士も、確かそうですが、それと、もう一つ、政治の世界でも、そうではないでしょうか？

D：実際には、本当にそうだとは思えないような人も、いるにはいますがね（笑い）？だから、本当は、そういう人達は、「先生」と呼ばれてはいけない？！

I：特に、政治家??

D：それは、何とも言えませんが、しかし、それは、どこの分野でもそうであって、生身の人間であれば、それこそ多種多様な人がいることは事実でしょう？！

I：その中で、ただ単に、「先に生まれた（年上？だ）」ということではなく、「先を生きている」？！そういうことが大事だということですよ？！手本とか、道標になるような仕事あるいは生き様？そして、それが、結果的に、他の人達への明かり、水先案内となる？！

D：そこで、教育の使命は、「個々人の人格の完成」と「良き社会の形成」を目指すということですが、その仕事（生き様？）が、まさにそういうことなのでしょうね？！

I：それが、まさに「先を生きる」ということですよ？！ただ単に、「先に生まれた（年上？だ）」ということではなく、「先を生きている」！ということですよ？！でも、実際は難しい？！

D：だからこそ、それへの信頼と尊敬の情が得られる？そして、それは、永遠に求め続けられるものでもある？何と厳しい仕事なのか？しかし、やりがいのある仕事でもある？！ただ、医療の世界は、別な意味で、もっと過酷な現実があることは、一方で認識しておかなければいけない？！

（つづく）

⑬「A I」と「未来予測」?!しかし、それは、すべてが「過去」からの学習による?!

I：ある意味、自然の成り行きでしょうが、今般のコロナ禍においても、数々の「A I」が活躍しているようですね!本当に、今や「A I」なしには、「人間社会」は考えられないということですかね?

D：まさに、そういうことでしょう!少なくとも、「ツール」としてはね?!

I：いずれにしても、私にしても、それはそれでいいのですが、ふと考えたのは、よく「A Iによる未来予測?」的な形で、これからの人間社会のあり方みたいなものが提示されているようにも思うのですが、実は、それは、すべて?過去からの学習(の成果?)ということですよ?

D：言われてみれば、そうですね!A Iに、過去(現在を含む)の膨大な情報(ビッグデータ)を入力して(学習させ?)、それを解析し、そこから、意味のある連関(データの関係性。ただし、「因果関係」ではない!)を提示させる?そういうことかと思いますが、そこで大切なことは、そこから、どういうことが言えるのかを読み取ることかと思います!そういう意味では、「未来予測」ではあっても、「過去から学ぶ」、そういうことになりますよね?!

I：であれば、やはり、「(すべての?)学習とは、過去から学ぶこと?!」、そのようにも言えるのかも知れませんね?!ただ、違うのは、一人、または少数の人々が、たとえ長い年月をかけて追いかけた情報(データ)であっても、興味関心(視点や重要度?)は、まさに人それぞれであるので、ただそれだけでは、ほとんど未来予測(全体の学習成果の発揮?)にはつながらない?!

D：確かに、今までは、そういうことだったのかもしれませんがね!そういうことで、一方では、未来、未来と言われると、何か、これまでの人知の及ばない(予測不能な)ものがあって、私達人間は、それに、抗い切れない運命のようなものを感じる?!だから、期待や不安も生じる?いずれにしても、A Iが示す未来?も、すべて、そうした「過去」からの学習によるものであることに違いはない?!

I：であれば、A Iの学習(成果)であっても、過去からしか学べない?そういうことにもなる?!集積される(べき)データを、誰(どこ)が、どのよう

に入力するのか？換言すれば、A Iに、どのような学習をさせるのか、その「入力プログラム」の力量？が問われる？そういうことだけですよね？

D：詳しいこと（演算？）は、もちろん私には分かりませんが、多分？そういうことだろうと思います！故に、私達は、その演算の最適解？として、A Iの「未来予測？」が提示されるということを知なければいけない？！つまり、それは「未来」ではあっても、確定した「未来」ではない？！

I：ということで、それを受けて、ここでも突然ですが、私が専門？としてきた「生涯教育（学習）論」の最適解？は、そうしたA Iによって見つけることはできるのでしょうかねえ？あまりにも、現実は、理念と実体（実態？）がかけ離れているようで、しかも、その理念の性格上（→「普遍性」をもつ！）、何にでも妥当する？だから、敢えて、その理念を大上段に振りかざす必要がない？目の前の、実際に必要と実感される課題解決を、着実に一歩ずつ行っていけばよい？

D：もし、そういうことであれば、それはそれでよいのではないのでしょうか？！何にでも、どこにでも妥当するということであれば、まずは、それを大事にすればよい？！

I：だとしたら、極端に言えば、何も言わないでもいい？そういうことにもなりませんか？

D：否、実は、そこが違うのであって、理想（理念）は、理想（理念）として、常に抱きながら、今の現実（現状）が、それに照らし合わせて、どのようになっているのか、そこを、関係者が、常に真摯に、見極めながら進んでいく！そういう視点（姿勢）が、大切になるということです！その意味では、そうしたプロセスの大切さを解析する学習プログラムを組み込んだA Iが出来れば、それはまた、力強いツールとなるのかもしれないよ？！

（つづく）

⑭「ポスト・トゥルース post-truth (脱・真実)」の示唆するもの?!

I : ところで、最近、ひょんなことから(恥ずかしながら?)、標記の「ポスト・トゥルース post-truth (脱・真実)」という言葉(表現?)を知りました! ネット情報によると、「世論形成において、客観的な事実より、虚偽であっても個人の感情に訴えるものの方が強い影響力を持つ状況。事実を軽視する社会。直訳すると『脱・真実』」とあります。

D : 「客観的な事実が重視されず、感情的な訴えが政治的に影響を与える状況を表している。」ということでしょうか、このことは、まさに、今回の米大統領選挙でも、大いに妥当するようですね! ある人の戦術が、皮肉にもそういうことだったのですが(一度は、その戦術で勝った! )、これらの現象は、まさに「ネット社会」が創り出した「モンスターor ファントム(怪物/幽霊)」とも言えると思います! しかし、最早その存在自体は認めなければいけない! 残念ながら、無視は出来ないということですよね?!

I : 「真実」が見えない? 「真実」に依拠できない? であれば、一体「真実 truth」の価値は、どうなっていくのでしょうかね? 本当に困ったものです!

D : 要は、冷静に考えれば真実ではないと分かることも、「知人や家族がフェイスブックに書いていることなら信用できる」「ネットで検索したときに上位に挙がっている記事は正しい」などといった思い込みから、「フェイク・ニュース」、つまりデマ情報を真実と受け取る人々がいるということです! しかし、実は、そのこと自体も、まさに真実だということになります!

I : であれば、話は飛びますが、「VUCA (ブーカ)」の時代とは、そういうことも含んでいるのでしょうか? つまり、それは、「Volatility (変動性)」「Uncertainty (不確実性)」「Complexity (複雑性)」「Ambiguity (曖昧性)」の頭文字を合わせたもののようですが、これからの社会(世界)は、そうしたもののから成り立つ、そういうことでしょうかね?

D : そうとも言えるでしょうが、そのことも含めて、これまで、予測(統御?)可能な時代の「PDCA」(Plan 計画、Do 実行、Check 評価、Act 改善)というものがありましたが、これからは、予測不能な時代の「OODA」(Observe 観察、Orient 状況判断・方向づけ、Decide 意思決定、Act 行動)が、重要な視点



(手順)ともされているようですよ?!

I : 改めて、何と言う時代なのでしょうねえ? 古い私達? は、ついていけませんね?

D : しかし、そこでは、「A A R」(Anticipation 期待、Action 行動、Reflection 振り返り) というようなことも言われており、私は、ある意味積極的に、そのことを歓迎しようとは思っています!

I : 少し? 軽薄なのではないですか? そこに、例の「真実」は、どのように絡まってくるのですか?

D : そう言われれば言葉に窮しますが、例えば、「E B P M」(Evidence-Based Policy Making)ということが言われ、いわゆる「エビデンス(証拠→事実?)」が重宝がられるわけですが、その前提にある「P D C A」のP、すなわち「プラン(計画)」が、予測(制御?) 可能な状況の中であれば、一定の役割も期待できるのですが、状況そのものが、まさに「ブーカ」のそれであれば、たとえ手順は正当なものであっても、その成果(本当のエビデンス?) を担保するものとはならない? 逆に、「A A R」の方が、人々を元気にし、やる気もそそる?!

I : 要は、その限りにおけるエビデンス(証拠→事実?) でしかない? そういうことですね?

D : そういうことです! ですから、それは、「評価のための評価?」となるということです! 大切なのは、本当の成果、つまり、そこから何が生まれているのかということです。そこが見えない、分からない? そうなると、結局は、用意されたエビデンス(証拠→事実?) だけが前面に出て、その手続き(資料づくり)だけが評価されることとなります?! そうなると、膨大な資料作成の割には、その成果は限られてくる? そういうことにもなります(多くが、徒労? ということにもなる?!) !

(つづく)

⑮「保守（コンサーバティブ）」対「革新（リベラル）」、今、どのようになっているのか?!

I：先号（⑭）とも関わって、以前から思っていることですが、私達の若い頃は、いわゆる「保守（コンサーバティブ）」対「革新（リベラル）」ということが言われ、人々が、その双方の立場で、物事を見て、判断し、そして、行動していく。そういう捉え方が、一般的（普遍的）であったように思うのですが、最近では、どうもそうした見方が、よく分らない？極論すれば、成り立たない？

D：そうですね！例えば、選挙において、マスコミでは、「保守」対「革新」というような色分けで、今も相変わらず？人々の行動原理、社会のあり様（情勢）を説明しているようですが、どうも、しっくりこない？そういうことですよね?!

I：単純に言えば、そういうことなののですが、その辺りは、どのように見ればよいのでしょうか？

D：昔（当時）ほど、その明確な区分けが出来なくなっている？そういうことかと思いますが、それを考える前に、まずは、人々（人間）が、何故、そうした二つの思想（性向）に分かれるのかということを、今一度確認する必要があるのかもしれないね！つまり、その二つが、どうして生まれるのか（or 生まれてきたのか）ということです！

I：それは、どういうことですか？

D：端的に言えば、今の、それぞれの生活、社会状況に満足しているか、それとも、していないかということだからです！

I：しかし、それは、あまりにも表面的過ぎませんか？人々（人間）の世界観・価値観は、そんな、ある意味生物レベルの行動原理とは、違うのではないですか？

D：言いたいことは、よく分かりますが、言ってしまえば、我々人間だって、その生物の一つではないですか？だから、生物としての満足が、その根底にあるのは、ある意味当然なのではないでしょうか！ただし、その満足は、いわゆる肉体的な満足、言い換えれば、ただ衣食住が満たされているだけ

ではないということではあります！

I：それなら、よく分ります！要は、もう一つの精神的な満足、そういうことが加わってくるということですよ？！

D：そういうことですね！ただし、その精神的な満足は、そんなに単純なものではなく、その人の世界観・価値観（ある種の生活暦？）によって、かなり意味合いが違ってくるということではあります！

I：それは、どういうことですか？満たされているということに、かなりのヴァリエーションがあるということですか？

D：そうです！だから、私は、それを「納得」、出来れば「是々非々の納得」という言葉で言い表そうとしてきました！変な言い方ですが、「満足」よりは「納得」の方が、より人間的？であるからです？！

I：もし、そうなると、それぞれの立場（心情）が、たとえ「保守」とか「革新」とかというものであっても、そこで大切なことは、そこに、それぞれの「納得」、しかも「是々非々の納得」が、どのように入り込んでいくのかということになりますよね？！

D：まったく、その通りかと思います。近年の、いわゆる「無党派層」と呼ばれる人達は、従来の「保守」とか「革新」とかと呼ばれる立場への、絶対的な信頼を捨て去り、その時々の「納得」を、自らの行動原理としている？！しかし、それ故に、移ろい易い？！

だが、一方で、「保守」も「革新」も、そうした人間の行動原理から逃れることはできない！ただ、レッテルとしては、それを維持できる（少なくとも、そのように振る舞うことはできる？）？！その違いだけなのではないか？！とは言え、その違いは、その時々の社会システムでは、否が応でも大きなものとならざるを得ない？！

（つづく）

⑩「国際社会」「グローバル（リゼーション）」「地球市民？」「理性？」etc. これらの行く末は？

I：本当に、最近、コロナ禍の永続化（→第三波襲来！）、身近な生活での非日常の恒常化（→ニューノーマル！）、一方で、国際社会の不透明・膠着（自国内のドタバタ？）、等々、肉体的にも、精神的にも、すっきりとしない日々が続いており、かなりの閉塞感が漂っているような状況ですが、少し元気を出して、標記のようなことについて、私（達？）なりに考えてみたいのですが、いかがですか？

D：世の多くの人達が、それこそ「生きる（生き延びる？）」ために、目の前の仕事・生活に全精力を傾けている中、私達だけが、このようなことをしていいのか？かなり複雑な心境ではありますが、私とあなたの関係では、付き合わないという選択肢はありませんね（笑い）！

I：そうですか！それはよかった（同じく笑い）！では、まずは、そのような4つのキーワードが、何故出てくるのか？その辺を、私から示すことにします。前二者については、まさに直結していますので、問題は、何故、「地球市民」とか、「理性」が出てくるのか？そういうことですよ？！

D：確かに！要は、「国際社会」とか、「グローバル（リゼーション）」とか言われても、そこに、どのような内実（生活的納得？）があるのか？単に、あらゆる事象が、世界的に繋がっている！だから、他国との関係（利害？）を常に考慮しながら、仕事や活動をしていかなければならない！とは言え、往々にして、自国（自ら？）の利害が優先され（「大国？」では、それが顕著？）、何のための「国際社会」（「グローバル（リゼーション）」）なのか？そういうことにもなりますよね？！

I：「〇〇ファースト（第一主義）」とかというようなことかと思いますが、ある意味、人間（集団）の本能（宿命？）でしょうが、結局は、「自ら（自国？）が可愛い（大切？）」ということですね！だから、そこには、「地球市民」とか、「理性」とかというものが、一方で必要となってくる？！

D：なお、「地球市民」というのは、まさに「コスモポリタン」ということで、「① コスモポリタニズムを奉ずる人。世界主義者。② 国籍、国民感情などに左右されない人。世界的視野をもち、世界的に活躍する人、外国

人との交際の多い人、祖国を忘れて世界をわたり歩く人などをさしている。また、国籍、国民感情などにとらわれないさま。」とあるようですが、ここでは、自国のことだけを考えない人というような意味でいいのだと思います！

I：まったく、そういうことなのですが、実は、それは、もう一つの「理性」ということにも直結していると思うのです！

D：それは、「1 道理によって物事を判断する心の働き。論理的、概念的に思考する能力。2 善悪・真偽などを正当に判断し、道徳や義務の意識を自分に与える能力。3 カント哲学で、広義には先天的能力一般。狭義には悟性・感性から区別され、悟性の概念作用を原理的に統一・制御・体系化する無制約の認識能力。理念の能力。4 ヘーゲル哲学で、悟性が抽象的思考の能力であるのに対して、弁証法的な具体的思考の能力。5 宇宙・人生をつかさどる基本原理」とありますが、ここでは、当然、1と2ということですよ？！

I：まさに、そうですね！だけど、これから、その「理性」は、一体どうなっていくのでしょうか？

D：たとえばAIが、それに代わっていくとしても（苦笑？）、要は、自分（達）が生活している社会（世界）の状況を、目の前の自分（達）の生活状況の中で、どのように見る（受け止める）かということですが、ここが、やはり難しい？古代ギリシャにおいて、「地球市民（コスモポリタン）」というようなことが言われたり、「近代」になって、カントが「理性」を追求したりしたことは、ある意味、いつの時代も、そうした人間存在の普遍性（内面的価値？）は、その時代時代で、常に頭を悩ませるものでもあるということかもしれませんね？！  
(つづく)

⑩「文明(科学?)」の進展が生んだ?「民主主義」「法治主義」の浮遊(崩壊?)?!

I : そこで、先号(⑨)に続くようですが、これもまた、ここ最近の「難しいテーマ?(社会・政治問題?)」になるかと思いますが、標記のようなことも、一方で思うのですが、いかがですか?

D : ひょっとしたら、その通りかもしれませんね!とにかく、今回のパンデミックとかも含めて、世の中(世界)が、ある種の混乱(混沌?)に陥っているということは事実なのですから?!

I : そういう中で、我が国のことはもちろんですが、一方で、アメリカの状況は、特に、気になりますよね!直接的には、この度の「大統領選挙」のことですが(とりわけ投票後の状況!),まさに、「民主主義」「法治主義」の崩壊(この場合は乱用?)と言えるのではないのでしょうか?!

D : 「プログレッシズム(進歩主義)」とか、「プラグマティズム(実用主義)」とか、アメリカ(人)の歴史的的精神基盤のようなものが言われますが、それが、「混乱」や「対決」と、ある意味表裏一体でもある?!しかし、それが、一方では、「自由」、そして、移民国家、「多様(な人種?)」が織りなす「一つの形」なのかもしれません?!

I : それは、改めて、一体何なのでしょうね?どう受け止めればよいのでしょうか?

D : 私にも、よく分かりませんが、この「民主主義」「法治主義」については、それが成熟していない?国(地域)はともかく、我が国も含めて、今まさに「浮遊(崩壊?)」しているのは事実でしょうね?!要は、何が善で、何が悪なのか、はっきりとしないということです(→「ブーカ」の時代!)?!

I : 先号で言えば、「理性」というものが見えなくなっている?否、「理性」というものに、信頼が置けない?そういうことでしょうか?

D : そうとも言えるでしょうが、形の上では、「民主主義」「法治主義」ということにはなっていますが、ある人達が、それを悪用したり、自分達にとって都合のよいものにしようとしていたりしている?そういうことになりませんか?!

I：ある意味、残念と言えば残念なのですが、それも、一つの「生」？そういうことでしょうかね？

D：しかし、そういう中で、やはり正しいものは正しい、悪いものは悪いと、言い続けることは必要ですし、現に、そういう思いや行動を採っている人もいますよね！ただ、怖いのは？、そういうことに対する無関心や、そのことを逆手に取った、ある種の現実主義者の横行です?!

I：それについては、宗教やスピリチュアルなものへの逃避？というようなものも、一方であるかと思いますが、それも含めて、それはそれで、一つの生き方（生き様？）ということにはなりますよね?!

D：確かにね！世の中の悪や矛盾に対する、一人ひとりの向き合い方でもあるわけですので、それはそれでいいのだと思います！しかし、他方で、それが、自死や、他人の命を奪うというようなことにまでつながっていけば、やはりそれは、悪であり、あってはならないものということになります！

I：何か、得体の知れないところまで行きそうですが、いずれにしても、こうしたことは、太古の昔から、人間（集団）が行き着いていた「闇の世界？」かもしれませんね？

D：それは、何とも言えませんが、そうした「闇の世界？」があるからこそ、「天空（太陽／月／星々）」とか、「自然（脅威であり、恩恵でもある!）」とかに「神」の存在を感じ（創り?）、一定の精神世界、つまり「生活上の安心・安定（納得）」を得てきたことは事実なのではないでしょうか?!

「祀りごと（祭祀）」と「政りごと（政治）」が、まさに一体であったということですが、現代（これから）において、その関係が、どのようになっている（く）のか？そういうことが、改めての観点になっていくののかもしれませんね?!ある意味、その二つを分断（一つを捨象?）してきた「文明（科学?）の進展」には、思わぬ「副産物（つけ?）」があったということかもしれませんね?!

（つづく）

⑩そこにある「社会（集団）」と「国家（約束事）」の乖離（齟齬？）?!

I：さて、これもまた、前号（⑨）からの続きになりますが、「文明（科学？）の進展」が、副産物として、「民主主義」や「法治主義」の浮遊（崩壊？）を生んだということですが、それは、改めて、どういうことになるのでしょうか？

D：繰り返しますが、それは、「祀りごと（信仰→精神の安寧？）」と「政りごと（政治→約束事の策定？）」の分断（一つを捨象？）を招いてきたということですが、別な言い方をすれば、「文明（科学？）の進展」が、「社会（集団）」と「国家（約束事）」との乖離（齟齬？）を促進させたということですか?!

I：え？それは、どういうことですか？「祀りごと（信仰→精神の安寧？）」が「社会（集団）」の本旨であり、「政りごと（政治→約束事の策定？）」が「国家」の本旨ということでしょうか、それが、うまく噛み合っていかなかったということでしょうか？

D：単純に言えば、そういうことかと思います！要は、人々（国民）の精神の安寧？を、それを保障するべく行われる約束事の策定？が、十分には齎<sup>もたら</sup>してこなかった？そういうことです！

I：確か、誰かが言っていたと思いますが、「国家」とは、一つの「擬制（約束事？）」であり、それ故に、永遠ではないということですかね？

D：そうとも言えますが、問題は、何故、永遠ではないのかということですね?!

I：そうであれば、答えは簡単ではないですか？あくまでも、それは、生身の人間（集団）の欲望（願い）の調整であるからではありませんか？だから、「擬制（約束事？）」というのではありませんか？

D：その生身の人間（集団）の欲望（願い）は、いい意味でも、悪い意味でも果てしなく広がり、そして、それを、「文明（科学？）の進展」が後押しをした?!否、正確には、「文明（科学？）の進展」が、生身の人間（集団）の欲望（願い）を広げ、それを実現させた?!

I：そうすると、たとえどのような人々が、その調整を行おうとしても、一



つにはまとまらない？したがって、約束事としては、良くて「最大多数の最大幸福」ということになるわけです！しかも、それは、まさしく「擬制」としての「議会制民主主義（選挙）→国家の運営」に委ねることになる?!しかし、それは、あくまでも「擬制」であるので、万人が納得のいくものにはならない？

**D**：そういうことですね！ということで、「社会（集団）」と「国家（約束事）」の乖離（齟齬？）は、ある意味永遠に続くということであり、その乖離（齟齬？）を、いかに少なくするかということが、その構成員の責務であるということになります（決してリーダーだけではない!）！だから、その最大（最後）の契機が、実は、「選挙」になるということなのです！しかし、その「選挙」が、この間の「体たらく」を示しているわけですので、改めて、その混迷は続くということでしょう?!

**I**：でも、それでも、少しでも良くなるように、その構成員が頑張っていけば、事態は、何とかなっていくますよね?!

**D**：もちろんです！ただし、その頑張り方が、多少でも間違っていれば、残念ながら、そうはいきません？そのことは、多くの歴史的事実（事件?）が指し示していることです！本当に、難しいものなのです！しかも、その間違いは、ほとんど後になって分かるものなのです?!

**I**：とは言え、後は、その時々生きる（生まれた?）一人ひとりが、自らの「生」を、いかに「生きる」か、そして、いかに「それに納得する」か、そういうことになりますよね?!

**D**：まったく、その通りかと思います！そして、そこで、常に忘れられていけないのは、単なる「約束事（政治）」への納得ではなく、心からの納得、すなわち「祀りごと（信仰→精神の安寧?）」の要素が必要だということです！その一体化が必要だということです！

（つづく）

⑩そこに必要な「政治」と「経済」の健全化、そして、最後は、「教育（学習）」の力?!

I：そこで、またまた前号（⑩）からの続きとなりますが、その時々生きる（生まれた？）一人びとりが、自らの「生」を、いかに「生きる」か、そして、いかに「それに納得する」か、そういうことでしたが、それには、どうということ（条件・環境等）が必要なのでしょうね？

D：やはり、それは、現実の「政治」と「経済」の健全化、そして、最後は、「教育（学習）」の力ということになりますかね?!

I：なるほど！しかし、「政治」と「経済」ということについては、ある意味よく分かるのですが（人間集団が生きていくための必須の営為！）、最後が、「教育」の力というのが面白いですね！

D：綺麗ごとを言うようですが、最終的には、その社会（国家？）の構成員の一人びとりが、自分の目の前にある世界、そして、そこで繰り広げられる物事・事件を、どのように見、受止め、そして、それに、どのように関わっていけばよいのかということになります！それには、相応しい知識、技能、そして、態度が必要となるのです！

I：でも、相応しい知識、技能、そして、態度とかいっても、具体的には、何が相応しいのか？個々人が、それを判断するのは、とてつもなく難しいのではないですか？しかも、それを、各自が着実に身につけるなんて？ましてや、複雑多岐に亘る、この社会（世界）ですから！

D：だから、「教育（学習）」の力が必要となるのです！だから、それを教える（学ぶ）ための学校が必要なのであり、それを広げる（補う？）、その他の教育（学習）の機会が必要なのです！まさに、「学校教育」や「社会教育」と呼ばれるものです！

I：確かに、それはそれでよく分りますが、しかしながら、現実のそれは、必ずしも、みんなにとって望ましいものかどうかは分かりませんよね？多くの事件・事故、さらには醜い実態もある？だから、不信感や嫌悪感も持つ?!

D：もちろんそうですが、だからと言って、それが、不必要だということに

は、絶対になりません！ましてや、自らの経験（学び）だけでは、限界や欠落も生じます！大事なことは、常に相応しいものになるように、みんなが努力し（苦悩も伴いながら？）、必要な場合には、互いの協力を広めていくことです！それが、現生人類（ホモサピエンス）の強みでもあったのです（そのようなテレビ番組があった！）！そういう意味では、「生涯学習（社会）」の理念は、人類の原点なのかもしれません！

I：そう言えば、過去の、多くの偉人達の行き着く先が、実は「教育」であったということは、まさにそういうことにもなるのでしょうか？最後は、教育（学習）によって培われる、一人ひとりの意識や行動力が、すべてを決めるということでしょうか？！

D：その通りかと思います！まさしく、その「教育（学習）」の力に期待したのだと思います！もっと言えば、それに頼るしかないという、悲壮な？思いでもあったのだらうと思います！

I：とは言え、残念ながら、そうした期待（悲壮な思い？）も、時代の波に掻き消されていったり、歪曲されたり、あるいは一部の人達の、言わば「密教的な？」実践ということであったりということでもありました?!

D：確かにそうでしょうが、全体（総体）としてみれば、着実に前進しているのではないのでしょうか？人間の知恵とエネルギーは、その時々には右往左往（失敗？）しながらも、いい方向、いい形で動いていくのです！それを信じて、我々は頑張っていくしかないのです！たとえそれが、自らの世代だけで成就しないものであっても?!

（つづく）

②⑩「ひきこもり（こもりびと）」！「普通」が怖い?!そこにあるメカニズムとは?!

I：さて、話は変わって、もう随分前（昔?）のことですが、私は、ある教育関係の雑誌（週刊）において、「普通（の上等）の意義」みたいなことを書いたことがあるのですが、過日、ひょんなことから、NHKの「土スタ?」という番組（武田鉄矢がゲスト出演）を視ていたら、「ひきこもり（こもりびと）」というドラマが、次の日に放映されるということでした（実際、本番も見ました!）!

D：それが、どうかしましたか?

I：番宣ということではあったのですが、そのドラマの肝みみたいなものが話されていたのですが、少し興味をそそられたので、話を聞いていました。そこでは、その「ひきこもり（こもりびと）」の原因が、「普通が怖い!」というようなことでした!状況は、かなり違っているとは思いますが、かつて「普通（の上等）の意義」を説いた人間の一人として、何か複雑なもの、聞き捨てならないものを感じたということですか?!

D：多分?現在、コロナ禍の中での「ひきこもり（ステイホーム）?」はともかく、有名タレント?等の、不可解な（本当は、知らされていないだけ?）自殺?も多々ありますので、その「ひきこもり（こもりびと）」に、少し引き込まれたということですかね?!それはともかく、現在、年代を問わず、100万以上がそういう状態であるらしいので（実際は、それ以上?）、やはり大きな問題（テーマ）ですね!

I：まあ、「自殺」と「ひきこもり」は、イコールではありませんので、その辺は、何とも言えないと思いますが、私（達?）なりに、もう一度、「ひきこもり」と「普通（が怖い?）」との関係性は、考えてみたいですね?!

D：そういうことでしたら、一時期、「限りなく透明に近いブルー」とか、「（そこにいるのか、いないのか分からないような）透明人間」とかといった形（言葉／表現）がありましたが、端的に言えば、生きている今の自分が情けない、他人にリスペクトされていない今の自分が悔しい（悲しい?）といった、自己の存在への負の主張（感覚）が、そこにある（った?）のではないのでしょうか?

I：「普通は嫌だ!」「もっとビッグになりたい!」「しかし、その普通さえ出

来ていない自分、何て無様なのだ！みっともないのだ！」、言わば、そこにある「自己（自我）」の浮遊（自我肥大と自我縮小？→これは、ある意味表裏一体？）なのだと思いますが、とにかく、「救われる自分（自我）」は、どのようにして（どこから？）得られるのか？そこが見えない？分からない？

**D**：一つの方法としては、他者？との交わり、たとえ間接的なものであっても、それが必要なのだと思います！言い古されてきたとは思いますが、まさに「バイパス（非日常／脱日常）」の大切さ、例えば、「異年齢交流」や「自然体験」、そして、「趣味」ですね（「多様な世界・価値観」との出会い！）?! だから、そこに、「地域」の復権もあるのです（地域は、その機会に溢れている!）?!

**I**：ただし、現実には、そういう出会いやきっかけは、ほとんどない（閉ざされている?）?!もちろん、自らがそういう状態にしているということですが、一方で、偉大なる世界・存在（価値観?→身近な親→特に父親?）がある?!しかも、それは、そこからしか見ない（見えない?）世界（普通）となっている（これこそが、曲者なのだ!）?!だから、普通（みんながやっていること?）が怖い?!

**D**：そうなのです！要は、「普通」の見え方（見させ方?）が悪い（間違っている）のです！だが、間違っていけないのは、その「普通」は、各人が一生懸命に実現させているものなのです！決して手を抜いて実現させているものではないのです！そこで、私は、改めて声を大にして言いたい！「普通」は良くないという、誤った？メッセージは、それこそ良くない?!「普通のみんが、一生懸命に勝ち得ているもの、それが『普通』、敢えて言えば、『普通の上等』なのである」！

（つづく）